は食を供し衣を共えて、安んじて長年月の間勉学させたという。また交友も広く、志士の佐久良東雄、三輪田綱一郎など、学者の伊能穎則、久米幹文などとの交りがあった。

三中は田制度量についてとくに造けいが深く、著述も多い。面白いのは、その著「田制図解抄」の中で、「平家一門の領せし田園の天下に半ばなりしを没収して頼朝に賜りしは莫大の朝恩なるに、なお上を要して下をしいたげて、その私慾をほしいままにす。豈これを忠孝の人といわんや。諸国に守護、地頭をおき町別に　米五斗をとること、町別の租法不三得七の米五斗二升五合の他に、米五斗を出しては一町の米一　（石）二升五合となり租法の重くなるは頼朝のときからで、海内の民の困弊思いやるべし」と幕府の開祖頼朝の政りごとを痛烈に批判していることである。

色川三中は安政二年六月二十三日病没、土浦市内外西町神竜寺境内に埋葬されている。なお、三中は代々の通り名で三郎兵エといったが、明治年間に逆水閘門の建設や、常監部路敷を霞ケ浦寄りに敷設させるなど土浦の治水に貢献した色川三郎兵エは三中の孫にあたる。

自転車を考える
――脱自動車化社会――

奥井登美子

対談者　坂本喜久江・中沢玲子
荻沼護郎・小松崎幹男
田崎文雄・大沼純一

〃バイコロジィ〃などという言葉をきくと、カッコイイ若者の乗りものとして若い人の中に定着しつつある自転車を思いうかべてしまう。

自動車はあと何年か、今迄のように製産されると、日本中の道路という道路、すべて自動車で埋って身動きが出来なくなってしまう計算だし、光化学スモッグの最大原因が排気ガスであることはほゞ説明されているし、自動車による交通事故の死者は、今年で、もう一万人を越えた：：：など、など：：自動車は今や我々市民にとって〃いいもの〃ではなくなりつつある。ここに自動車社会に対する痛烈な批判として、バイコロジィ運動をとらえてもよいのではないかと思うのである。

自転車は排気ガスを出さないし、騒音もたてない。万